

(1) 【実践事例 2】

2 年	カメレオンはだれだ？～人物像に着目して読もう～	カメレオン	東京書籍
-----	-------------------------	-------	------

■ 言語活動について

本単元では、学習指導要領第 2 学年「C 読むこと」の（2）に位置付けられている言語活動例の「ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」を参考にして、「人物像」に着目して小説を読み、読み取ったことを根拠に自分の考えをまとめて交流をするという言語活動を位置付けました。この言語活動を通して、「人物像」を捉えるための視点を基に、分析的に作品を読むことで内容の理解を深めたり、自分の考えをまとめたりすることを指導します。

課題解決に向けた授業改善のアイデア



■ 目的や意図に応じて文章を読ませる指導	題名がなぜ「カメレオン」なのかという点から、文章の中の「カメレオン」を見付けるために「人物像」に着目して読む学習課題を設定します。
■ 学習用語を生かした指導	「人物像」（文学な文章を読むための学習用語）の意味や「人物像」に着目した読み方について、共通理解を図ります。
■ 条件設定を明確にした指導	自分の考えをまとめる際に、条件を設定して考えを書かせます。前提となる場面設定や視点を捉え、条件に沿って書かせます。条件とは、「字数制限」「文体や文の形式の設定」「自分の立場や根拠を明らかにする」などを指します。
■ 文章を読む視点を基に、分析的に読ませる指導	「人物像」を捉えるために「行動」「外見」「言葉」「他の人物の態度」という 4 つの視点を取り上げ、分析的に読む指導を行います。その際、思考ツールを活用したワークシートを用い、考えを整理します。

※思考ツール

思考ツールとは、頭の中にある考えやその過程を視覚的に表すことができる、思考を助けてくれるツールのことです。ここでは、考えを進める手順やそれをイメージさせる図のことを指します。

チャートを活用し、視覚、聴覚、嗅覚、触覚など多様な視点から感じたことをリストアップします。その上で、新しい考えを生み出します。

Yチャートは 3 つ、Xチャートは 4 つ、Wチャートは 5 つの視点が設定できます。

「カメレオン」では、4 つの視点を取り上げたので、Xチャートを使用しました。【ワークシート①】

単元の目標

- (1) 表現（言動・様子）を根拠に、「人物像」を捉えることができる。
- (2) 読み取った「人物像」について、自分の考えをもつことができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章を読んで登場人物について考え、交流して考えを深めようとしている。	・「人物像」に着目して文章を読み、根拠となる表現を挙げて自分の考えをまとめている。 〔読むこと(2)ウ〕	・語句の意味を国語辞典で調べ内容の理解に役立てている。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(イ)〕

指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	1 既習教材を用い、「人物像」を捉える練習をする。 2 題名について考える。 3 本文を通読する。 4 人物の言動、様子に着目して人物像を捉える。	・取り上げる学習用語「人物像」 ・興味を喚起する資料を提示する。 ・題名と登場人物の関連について考えさせる。 ・登場人物にマーキングをしながら読ませる。 ・語句の意味を確認する。 ・作品に描かれた事物をイメージさせるために、描写に関わる資料を提示する。 ・「外見」「言葉」「行動」「他の人の態度」の4つの視点に着目させる。 ・抜き出した表現を根拠に、「人物像」をまとめさせる。	〔言語についての知識・理解・技能〕 【ノート】 〔読む能力〕 【ワークシート①】
2	5 4つの視点から捉えた「人物像」について、グループで交流をする。 6 作品に描かれている人物について自分の考えをまとめる。	・ワークシート①に記入している「人物像」の根拠となる表現を丸で囲ませる。 ・互いの考えを交流することで、読みを広げさせる。 ・自分の体験と結び付け、根拠を挙げて考えを書かせる。	〔関心・意欲・態度〕 【ワークシート②】 〔読む能力〕 【ワークシート②】
3	7 登場人物になりきって、言動の意味を説明する。	・本単元で読み取った「人物像」を再構築し、「オチユメーロフ」自身が自分のことを語る文章を書かせる。	〔読む能力〕 【ワークシート③】

指導計画 (1 / 3 時)

(1) 目標

- ・登場人物の言動、様子に着目して文章を読み、「人物像」について自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 既習教材「大造じいさんとがん」を使い、「人物像」を捉える練習をする。	斉	○「人物像」に着目して文章を読み、内容を理解していくことを確認する。
	2 単元の目標を知り、学習計画を確認する。 「人物像に着目して読もう」		
3 本時の目標を知る。 学習目標「登場人物の言動、様子に着目して文章を読み、人物像を捉えよう」			
展開	4 題名について考える。	斉	○「カメレオン」について、興味を喚起する資料(写真・映像)を提示する。
	5 本文を通読する。	個	○「カメレオン」という題名がなぜ付けられているのかを考えさせる。 ○登場人物にマーキングしながら読ませる。 ○語句の意味を確認する。 [言語についての知識・理解・技能] 語句の意味を調べ、内容の理解に役立てている。 【ノート】
	6 「人物像」を捉えるために人物の言動、様子を本文から抜き出す。	個	○「外見」「言葉」「行動」「他の人の態度」の4つの視点に着目し、ワークシートに整理させる。 [読む能力] 人物の言動、様子に着目し、特徴的な表現を抜き出している。 【ワークシート①】
7 4つの視点を基に抜き出した表現を根拠に、人物像について自分の考えを書く。 	個	○ワークシートに整理した言動、様子に着目して「人物像」を捉えさせる。 [読む能力] 本文から抜き出した登場人物の言動や様子を根拠に「人物像」について自分の考えを書いている。 【ワークシート①】	
まとめ	8 本時の振り返りと次時の学習内容を確認する。	斉	○次時は捉えた「人物像」についてグループで交流することを確認する。

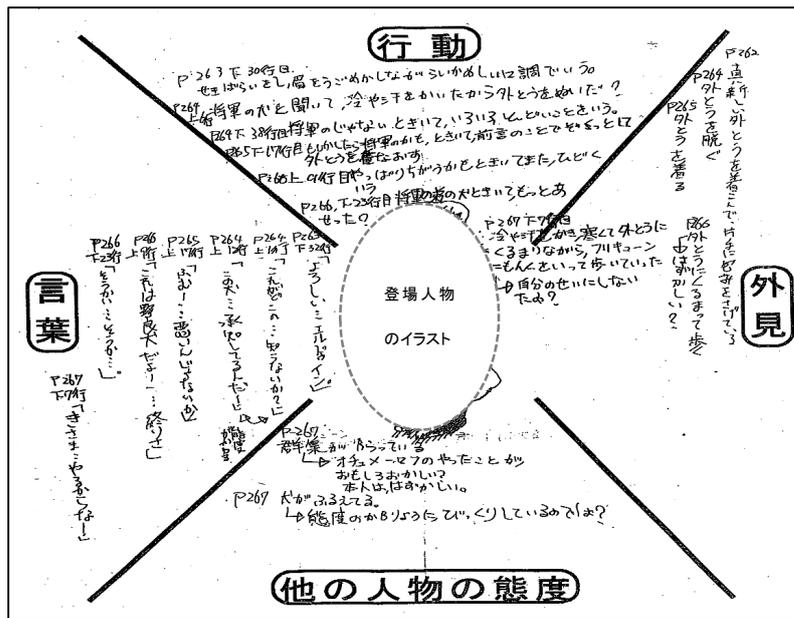
(3) 単元のねらいと本時の関わり

「人物像」を捉えるために、「外見」「言葉」「行動」「他の人の態度」の4つの視点に着目して文章を読みます。「人物像」を捉える手掛かりとなる表現を、思考ツールを活用したワークシートに記入し、「人物像」について自分の考えをもつための手立てとしています。

(4) 【ワークシート①】 生徒の記入より

◎「行動」「外見」「言葉」「他の人物の態度」の4つの視点に着目して、登場人物の言動・様子を抜き出そう。

(生徒のワークシートの記入例)



達富教授の「学びどき・教えどき」

中学校国語



④ 教師の模擬学習 (評価規準の設定)

わたしたちは授業の前に模擬授業をすることがあります。もちろんここから学ぶことも多いのですが、ともすれば教師の都合だけの時間配分の練習になってしまうことがあります。生徒の学びから外れてしまえば効果はありません。模擬授業とともに模擬学習をしてみませんか。課題を解決するために、単元の学習計画はこのままでいいか、この時間でできるのか、長すぎて学習の勢いがないか、グループで何をすればいいのかわかるのか、学習プリントが丁寧すぎて考える余地のないものになっていないか、考える手がかりが示されているのか、など、生徒の立場に立つと、たちまち再考しなければならないことが明らかになります。

模擬学習は評価の規準や評価の方法を考えることにも有効です。生徒の身になって考えてみれば、評価規準表は生徒に示すべきであることは明らかですし、教師としてどのようなてびきを作成しなければならないかも具体的に見えてきます。

指導計画 (2/3時)

(1) 目標

- ・「外見」「言葉」「行動」「他の人の態度」の4つの視点から捉えた「人物像」とその根拠を基にグループで交流し、考えを広げることができる。

(2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 前時の学習内容を振り返り、本時の目標を確認する。	斉	
	学習目標『外見』『言葉』『行動』『他の人の態度』の4つの視点から捉えた人物像とその根拠を基にグループで交流し、考えを広げよう。』		
展開	2 前時のワークシートで自分の考えを確認する。	個	
	3 4つの視点から捉えた「人物像」についてグループで交流する。 	G	<p>○グループは同じ人物を選んだ者で構成する。(3人)</p> <p>○他の人が捉えた「人物像」とその根拠をワークシートに整理させる。</p> <p>○交流をして自分の考えに影響があった発言にチェックを入れさせる。</p> <p>○自分の考えの変わったこと、変わらなかったこと、考えが広まったことを、ワークシート②にまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔関心・意欲・態度〕 「人物像」とその根拠となる表現について、グループで交流をして考えを深めようとしている。 【ワークシート②】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔読む能力〕 交流を通して、作品に描かれた「人物像」に迫っている。 【ワークシート②】</p> </div>
	4 作品に描かれた人物に対する自分の考えをまとめる。	個	<p>○自分の考えをまとめるための条件を設定し、自分の考えを書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔読む能力〕 「人物像」を捉えるために着目した表現から根拠を挙げて自分の考えを書いている。 【ワークシート②】</p> </div> <p>※(4)次頁【ワークシート②】生徒の記入より 参照</p> <p>○条件に照らして自分の考えを書くことができたか自己評価をさせる。</p>
まとめ	5 本時の振り返りと次時の学習内容を確認する。	斉	○次時は、登場人物になりきって「自分」のことを説明する文章を書くことを伝える。

(3) 単元のねらいと本時の関わり

「外見」「言葉」「行動」「他の人の態度」の4つの視点から捉えた「人物像」とその根拠をグループで交流することで、登場人物の「人物像」に迫ります。また、読み取ったことを基に、カメレオンのような人物について自分はどのように考えるのか、体験と結び付けて考えをまとめます。

(4) 【ワークシート②】生徒の記入より

◎作品に描かれている人物についてあなたの考えを書こう。

【条件】①文章中の言葉より、根拠を明確にして自分の考えを書く。

②自分の体験と結び付けて書く。

【評価規準】 A・・・①②ともに満たしている

B・・・①のみ満たしている

C・・・②のみ満たしている



《評価規準Aの記述例》

・②僕は、友達と先生に対する態度に違いがあります。みんなカメレオンのような一面もっていると思います。社会はそんなにあまくないので、そのようにならないと生きていけないと思いました。しかし、人によっては変化が激しい人もいます。①オチュメーロフのように、自分より位などが下の人には厳しくしたり、上の人には顔色をうかがったりするのはよくないと思いました。自分より上の人にきちんとするのは良いと思うけれど、皆平等に接するべきだと思います。

・②僕は仲のいい人とそうではない人によってしゃべる態度が少し違います。①オチュメーロフは位によって態度が変わるけれど、僕は、仲がいいか、そうではないかで決まります。だから、僕はカメレオンなのかもしれません。それから、態度の変わり方が激しいので、そこを直したいと思います。そして、オチュメーロフみたいには絶対なりたくないです。

《評価規準Bの記述例》

・カメレオンのような人物はいると思うし、自分の近くにもいるかもしれない。カメレオンのような人物は、自分の身を守るためにやっていると思った。①オチュメーロフは人によって態度をころころ変えて、本当のカメレオンのように見えた。自分の周りにはカメレオンのような人はいないから、もしいたら探してみたい。

・①オチュメーロフは、場やその場の雰囲気で見えを変えてくる人物でした。そういう人にはなりたくないと思っても、やっぱり無意識に態度が変わっているような気がします。私もカメレオンなのかもしれません。しかし、カメレオンのままではいけません。しっかりと自分の意見をもつことは容易ではないけれど、オチュメーロフみたいな人にならないように、しっかり意見もちたいと思います。

指導計画 (3 / 3 時)

(1) 目標

・言動や様子から捉えた「人物像」を基に、自分が注目した登場人物になりきって人物の言動や様子について説明することができる。

(2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。	斉	
	学習目標「言動や様子から捉えた人物像を基に、自分が注目した登場人物になりきって人物の言動や様子がどのような意味をもっているか説明しよう。」		
展開	2 登場人物になりきって、言動や様子の意味を説明する。	個	<p>○第1時で着目した登場人物の言動や様子について、ワークシートの記述を振り返らせる。</p> <p>○自分の考えをまとめて書くための条件を設定し、条件に合わせて記述させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔読む能力〕 4つの視点で読み取った人物の言動や様子について、その人物になりきって行動、言葉、外見の意味を説明している。 【ワークシート③】</p> </div> <p>※次頁(4)【ワークシート③】生徒の記入より 参照</p>
	3 自分自身に戻り、登場人物について、自分の考えを書く。	個	<p>○自分の考えを書く際には、視点を変えて書く前と後の考えを比べて書くようにさせる。</p> <p>○条件に照らして自分の考えを書くことができたか自己評価をさせる。</p>
	4 考えを学級全体で共有する。	斉	<p>○ペアで自分の考えを伝え合わせる。</p> <p>○数名に発表させる。(登場人物別)</p>
まとめ	5 単元の学習の振り返りをノートに記述する。	斉	○単元の学習を振り返り、「人物像」「視点」の2語を用いて、「分かったこと」を記述させる。

(3) 単元のねらいと本時の関わり

本単元で学んだことを再構築し、課題を変えて自分の考えを書く活動を位置付けました。読み取ったことを基に、視点を変えて自分の考えを記述させ、「人物像」に迫ることをねらいとしています。

(4) 【ワークシート③】生徒の記入より

※【ワークシート①】で捉えた人物の言動・様子の意味を考えます。

1 あなたが、() になったつもりで自分の言動や様子について説明しよう。

【条件】

- (1) ワークシート①に抜き出した「行動」「外見」「言葉」「他の人物の態度」の意味を、その人物になりきって説明する。
- (2) 取り上げた人物が、実際に話すように書く。

(生徒のワークシートの記入例)

(オチュメーロフ)

わしは権力があって偉い人間だ。この街はわしのおかげで事件が解決しているようなものだ。住人でわしに逆らうやつはいないし、わしは尊敬されている。この街に欠かせない存在だ。住人には敬われ、将軍のことを敬っている。ばかな住人どもとは違うんだ。将軍には自分がよい人間だと思ってもらうのは当たり前だ。なぜなら、わしは住人を従える善人だからだ。わしの気に入らないことをして、プライドを傷つけるやつが嫌いだ。わしは自分のやり方が正しいと思っている。

2 自分自身に戻り、登場人物についてあなたの考えを書こう。(視点を考える前と後を比べよう)

(生徒のワークシートの記入例)

オチュメーロフは、もっと自分の考えをもって行動すべきだと思う。そして、人には平等に接するべきだと思う。大切なのは権力などではなく、だれにでも優しくすることだと思う。

達富教授の「学びどき・教えどき」

中学校国語



⑤ ふりかえり

ふりかえりは形式的になりがちですが、形式的なふりかえりを続けることで量的な成長が見えてくることもありますのでこれを継続することも大切です。しかし、ふりかえりを言語活動化することで学習の意味的な定着を図ることも可能です。

ふりかえりの方法として、ノートを「学習の記録帳」として、形式的なふりかえりと意味的なふりかえりを蓄積することが考えられます。形式的なふりかえりとして、指導事項や思考操作などを表す学習用語を使ったふりかえりを続けることがあります。思考操作や学習用語の累積によって、量的な成長が自覚できます。意味的なふりかえりとして、固定化しないふりかえり方の提案があります。「分かったことを書く」「分からないことを書く」「問題を作る」「学習したことの誤答を書いてそれを修正する」「教える者と教えられる者を想定し往復書簡を書く」など、ふりかえりを言語活動化することで生徒の主體的な自覚化を図ることができます。

(学習目標)

登場人物の言動、様子に着目して文章を読み、人物像を捉えよう

1 登場人物の人物像に迫ろう

4つの視点に着目して、人物の言動・様子を抜き出そう。

外見

行動

登場人物

他の人物の態度

言葉

2

表現を根拠に、登場人物の人物像を捉えよう

成果と課題

課題解決に向けた授業改善のアイデアについて

◇目的や意図に応じて文章を読ませる指導・学習用語を生かした指導

「人物像」に着目して文章を読むために、題名がなぜ「カメレオン」なのかという課題を解決する単元を設定します。単元を通して「人物像」に着目した読み方や、読み取ったことが生かされるように単元の指導計画を工夫しました。また、「人物像」という用語の定義付けを行うことは、生徒が用語の意味を共通理解し、文章を読む目的を明確にすることにもつながっています。

◇文章を読む視点を基に、分析的に読ませる指導

「人物像」を捉えるために、「行動」「外見」「言葉」「他の人物の態度」の4つの視点で文章を読んできました。その際に思考ツールを活用したワークシートを用い、内容の理解に役立てました。生徒は、4つの視点で文章を分析的に読み、ワークシートに記述していききました。この記述が「人物像」を捉える根拠となり、自分の考えをもつことにつながっています。

◇条件設定を明確にした指導

- ・文章を読む際に、「登場人物にマーキングしながら読む」という条件を設定しました。登場人物を確認しながら読むことで、人物像に着目しやすくなりました。
- ・第2時で自分の考えをまとめる際には、「自分の体験を結び付けて書く」「根拠を明らかにして書く」という条件を示しました。生徒は条件を基に考えをまとめ、自分の考えを書くことができました。また、根拠を基に自分の考えをもつ学習活動を繰り返すことで、書かれていることを根拠にして自分の考えをまとめることができるようになってきました。

◇ワークシートの工夫

読み取ったことや自分の考えなど、1時間ごとに記述した内容を次の時間の学習に生かします。学習の履歴がワークシートに残っていることで、前時の学習を振り返り、学習したことを本時の学習に生かすことができました。

◆ワークシートや発問の指示

ワークシートや授業中の発問があいまいで、生徒が何を答えれば良いのか分からなかったり、教師のねらいと生徒の思考が合っていなかったりしていることが多いのではないかとこのことを本単元の授業を通して感じました。自分の考えを書かせる際に、身につけさせたい力は何であるのか、それに沿った発問であるのか、提示する条件は妥当であるのかなど、教師が授業の前に確認をし、改善することでより良い発問ができるのではないかと考えています。

